

## 博報財団 第13回「博報日本研究フェローシップ」成果報告書

## I. 研究成果概要

氏名(フリガナ)	BRIGHTWELL Erin Leigh (ブライトウェル エリン リー)
在住国名	アメリカ
所属・役職	ミシガン大学 アジア言語文化学部 日本古典文学 助教授
招聘回(招聘研究期間)	第13回 (2018年9月1日～2019年8月31日)
受入機関	京都大学
招聘研究テーマ	中世の「鏡物」と歴史叙述:日本の長い13世紀における末世と神国思想
研究目的	鎌倉時代の歴史叙述を巡る書籍の原稿を書き終えること
<b>研究成果概要</b>	
<p><b>1. どのように研究を進めたか(具体的に)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>*それぞれの「鏡物」の設定、つまりその「場」、の役割や意義がわかるために、中世の縁起に焦点を当てた。</li> <li>*文体の使用とその発展を明らかにすることをめざして、中世の写本を調査した。</li> <li>*「道理」や「末法」、「神仏習合」をより広い文脈で理解するために、「鏡物」以外の書物、すなわち「平家物語」(特にその序)や「愚管抄」も取り上げることにした。</li> <li>*蒙古襲来を取り扱う「鏡物」と建武の新政と取り扱う「鏡物」を二つの章に分けて、それぞれの事件をもっと深く検討することにして、「蒙古襲来絵詞」や「八幡愚童訓」、後醍醐天皇に書かれた和歌などを分析した。</li> </ul>	
<p><b>2. 研究によりどのような知見が得られたか(具体的に)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>*「鏡物」における文体の使用の二分化</li> <li>* 各々の「鏡物」の設定の移動や変質が現実世界の権威関係の発展を表す。</li> <li>*「末法」の概念の消失と伴い、「道理」も使用されないようになる。</li> <li>* 室町時代に書かれた「鏡物」が何より懐かしさの表現として理解できる。</li> </ul>	
<p><b>3. 研究成果(予定を含む)</b></p> <p><b>○論文(題目, 掲載誌, 発行者, 掲載月, 内容の概略(200字以内))</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・“Sinicization” in the New Middle of Everywhere [8世紀の漢字文化圏とローマ帝国のローマ文化圏: 文体と言説の関係についての小考]. <i>Fragments</i> 8 (2019). (<a href="https://quod.lib.umich.edu/f/frag?page=home#top">https://quod.lib.umich.edu/f/frag?page=home#top</a>) (刊行予定)</li> <li>・Making Meaning: Lexical Glosses as Interpretive Interventions in the <i>Kakaishō</i> [「河海抄」における中国の様相: 「遊仙窟」と女三宮を中心として]. <i>Journal of Japanese Studies</i> 47.1 (Winter 2021) (刊行予定)</li> </ul> <p><b>○口頭発表(題目, イベントの名称, 日・場所, 内容の概略(200字以内))</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・“A-/Un-/Re-dressing the Third Princess: the <i>Kakaishō</i>, <i>Yūsenkutsu</i> and the <i>Genji</i>.” [「源氏物語」と「河海抄」、 「遊仙窟」の関係: 女三宮を巡って]. MLA (米国現代語学文学協会)学会. (パネルでの発表). 2019年1月3日.</li> <li>・“Now Isn’t the End: A Medieval Experiment in Re-writing Mappō and Violence” [『水鏡』における末法と暴乱の解釈の試み]. 九州大学. IMAP/IDOC 2018-19年講演シリーズ. 2019年1月17日.</li> <li>・“Japan in the (English-language) World” [英語圏における日本文化教育-文学キャンオンと英訳の課題を巡って]. セインズベリー日本藝術研究所. 「世界における日本」のシンポジウム (パネルでの発表). 2019年2月16日. (スカイプで)</li> <li>・“Rule of (Cosmological) Law: the Rhetoric of Authority in Japan’s Medieval <i>Mirrors</i>” [中世日本の「鏡物」における権威の構築: 「道理」に着目して]. フランス国立極東学院・京都支部. 京都レクチャー. 2019年4月18日.</li> <li>・Making Meaning: Reading China onto <i>The Tale of Genji</i> in Medieval Japan [「河海抄」における中国の様相: 「遊仙</li> </ul>	

窟」と女三宮を中心として]。兵庫県立大学.招待講演. 2019年7月9日.

・The One About the Flatulent Priest: Getting a Laugh in Medieval Japan. [『今物語』における「をかし」の概念:その意義と役割を巡って]. 米国アジア研究回会議、ボストン、2020年3月19日 - 22日(予定).

#### ○その他の活動(単著)

・*Reflecting the Past: Place, Language and Principle in Japan's Medieval Mirrors* [『中世日本の「鏡物」と歴史叙述:「場」と文体、道理を巡って』].ハーバード大学出版社. 出版予定年月:2020年7月頃.

**要旨:**平安末期から室町初期にかけて、『大鏡』・『今鏡』・『水鏡』・『唐鏡』・『吾妻鏡』・『増鏡』・『神明鏡』のように、過去の出来事を「鏡」としてまとめる作品が次々と現れてきた。勿論、文体も序の有無も個々の作品で異なるが、どれも歴史の流れを宇宙的な力又は道理に支配されているものとして叙述する点で共通している。本研究では、「鏡物」の先行研究が近代の「歴史物語」の概念を前提とし、三鏡又は四鏡に偏っている点に疑問を投げ、幅広く歴史を「鏡」として叙述する意味を検討する。それを通して、「鏡物」の基にある価値観を読み取り、鎌倉時代における世界観の変遷を考察したい。

#### 4. 今後の活動予定

- \* 「今物語」に目を向け、作品の受容や流布を検討する。
- \* 「唐鏡」の注釈とその英訳。